

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00433

研究課題名（和文）戦、金、愛 エクトール・マロの大人向け作品における近代社会とその犠牲者たちの描写

研究課題名（英文）War, love and money. Hector Malot's novels for adults

研究代表者

梅澤 礼 (Umezawa, Aya)

明治学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50748978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：児童文学作家とみなされているエクトール・マロが、大人向けの作品のなかで戦争や金や愛といったテーマをどのように描いたのかについて、国内の学会誌に論文が掲載されたほか、フランス、カナダ、アメリカの国際学会で発表した。フランスとカナダでの発表内容は、いずれも令和6年に国際共著として出版される。また、みずからフェミサイドと文学に関する国際学会も開催し、発表内容はオンラインの国際紀要に掲載された。そのほか、雑誌『ふらんす』でマロの関連作品を紹介し、高志の国文学館で講演をするなど、研究成果を一般にも広く公開することができた。さらに、後世の犯罪学者であるド・グレーフとマロの関係性にも気づくことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

エクトール・マロは日本でもフランスでも子供向けの作家として知られている。しかし実際には大人向けの作品を多く発表していた。本研究はそのなかでもとくに戦争や女性や愛情といったテーマに注目し、マロの大人向け作品の特徴を明らかにしようとするものである。これまでの研究のなかで、光と闇がマロ作品を理解するうえで重要な比喻であることがすでにわかっていたが、3年間にわたる国内外での学会発表や国際共著の執筆をとおして、マロが、愛ゆえに近代社会の原始的な闇のなかに生きる女性と、愛ゆえに新しい時代を切り開いてゆく女性の両方を描いていたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：On the description of war, many and love, my article is inserted in a Japanese revue. I have also made presentations in Canadian, American and French conferences, and two books in cooperation with researchers from other countries will be published in France in 2024. I organized an international conference on femicide and literature, and our articles are published in a French online journal. In addition, I wrote articles in a magazine and gave a conference in a municipal library, in order to present the results of my research to the general public.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：マロ 女性 愛 光 闇 犯罪

1. 研究開始当初の背景

エクトール・マロは『家なき子』の作者として知られていることから、日本だけでなく本国フランスでも、子供向けの作家として知られており、文学研究では重視されてこなかった。

しかし実際には大人向けの作品のほうを多く残しており、そうした作品のなかでは犯罪や戦争、金銭や女性といったテーマを多く扱っていることが、フランスの先行研究や自身のこれまでの研究によって明らかになっていた。

2. 研究の目的

そこで本研究は、エクトール・マロの評価を、日仏両語での論文はもちろんのこと、翻訳、専門書、一般書の出版を通じて、世界的に一新することを目的とした。

これにより本研究は、マロについての国内外の研究の発展に貢献できるだけでなく、マロとの関係をめぐって、19世紀フランス文学研究全体に新たな可能性を提供することになることが見込まれた。

3. 研究の方法

令和3年から5年にかけて、毎年1作品について、日本語もしくはフランス語で研究発表を行い、その成果をまずは世界に向けてフランス語論文として発信し、そのうえで日本語での講演や解説をとおして国内に広めるという方法を取ることにした。

4. 研究成果

令和3年度前期は、エクトール・マロの『青い血』における金銭の描写を中心に分析を行なった。しかし夏は感染症の拡大により渡仏ができず、フランスでの調査も関係者との面会もかなわなかった。後期にはアメリカの19世紀フランス学会にオンラインで参加し、犯罪と文学について発表をした。また、日本フランス語フランス文学会中部支部大会で、マロについての口頭発表を行なった。そのほか、雑誌『ふらんす』で、マロについての連載を行った。

令和4年の5月にはカナダのフランス文学会(オンライン)に参加し、文学と刑務所についてフランス語で発表を行った。7月には、高志の国文学館(富山)で講演し、おもに『家なき子』を知る世代を対象に、彼の社会派作品について、また彼の作品における犯罪や欲望について、これまでのマロ研究の成果をもとに話をし、研究成果を広く一般に公開することができた。夏には、19世紀末のマロと共通点をもつ20世紀の精神科医ド・グレーフについて、ベルギーに赴き調査を行った。10月には、文学作品のなかで女性の殺害がどのように描かれてきたのかについて、歴史家の Marc Renneville を招いて国際ワークショップを企画・開催し、フランス語で発表した。その内容は、フランスのオンライン紀要 Criminocorpus に日仏両語で掲載された。3月には、マロの『青い血』をめぐるフランス語論文が学会誌に掲載された。

令和5年前期には、ハンガリーで行われた国際学会で、文学と隠語について発表を行った。9月には、フランスで開かれた国際シンポジウム「光と影の女性たち」(2023年のテーマは「アウトローな女性たち」)に参加し、これまでの研究結果も紹介しつつマロの『共犯者たち』を分析する発表を行った。日本からの参加は初めてであるということ、マロは開催地オルレアンとも縁の深い作家であるもののやはり子供向け作品しか知られていないこと、何よりマロについての本格的な研究はフランスでも少ないことから、発表は大変好評であった。また、マロ友の会のメンバーがプログラムを見て発表を聞きに来てくれており、入会を勧めてくれたうえ、会長の連絡先も教えてくれた。同じく発表に感銘を受けてくれた元上院議員やフェミニズム団体の副代表とも交流をし、研究の地平をさらに広げることができた。11月には、前述のド・グレーフについて、『犯罪へ至る心理:エティエンヌ・ド・グレーフの思想と人生』と題する単著を出版し、そのなかでマロとの共通点についても考察した。

なお、令和4年に行ったアメリカの学会での発表と、令和5年に行ったフランスの学会での発表は、いずれも国際共著として、令和6年に出版されることが決定している。

3年間の研究を通して、最終的に以下のことが明らかになった。エクトール・マロの大人向けの作品では、光と闇、近代と未開といった比喻で、金銭がらみの犯罪や、女性たちの姿が描かれている。長い間、子供向けの作家として捉えられてきただけに、これは大人の読者の教育 悪いことはしないという読者のいわば「近代化」を目的としてい

たからだと思われてしまいかねない。

しかしマロが行いたかったのは、読者の教育ではない。マロはむしろ、圧倒的な光で暗闇へと追いやられてしまった人々に、正義の光ではなく独自のやさしい光を当て、彼らの、さらには追い詰めた側の苦しみをも浮かび上がらせようとしていたのである。

そのうえ晩年の『共犯者たち』では、新しい女性が描かれている。夫から疎まれている主人公は、暗闇を利用して愛人と逢瀬を繰り返す。やがて二人は共謀して夫を殺害するのだが、犯罪が露見する前に罪を告白した彼女は、自由の身となり、新しい人生に向けて歩いてゆくのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Aya Umezawa	4. 巻 46
2. 論文標題 Le monde bipolaire et son avenir. Le Sang bleu (1885) d' Hector Malot	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本フランス語フランス文学会中部支部研究論集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aya Umezawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Du crime passionnel au femicide. A propos de l' affaire Chambige	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Criminocorpus	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Aya Umezawa	4. 巻 45
2. 論文標題 Le monde bipolaire chez Hector Malot autour du Mariage de Juliette et Une belle-mere (1874)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本フランス語フランス文学会中部支部研究論文集	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24522/basllfc.45.0_55	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Aya Umezawa
2. 発表標題 La folie penitentiaire et la litterature des annees 1840
3. 学会等名 ACEF-XIX（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aya Umezawa
2. 発表標題 Du crime passionnel au femicide. A propos de l' affaire Chambige
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aya Umezawa
2. 発表標題 Mutation du pouvoir dans le contexte carceral ; les destins de Raynal et Lacenaire, deux poetes prisonniers des annees 1830
3. 学会等名 Nineteen Century French Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梅澤礼
2. 発表標題 対立から和合へ エクトール・マロの『青い血』 (1885)
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会中部支部大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 梅澤礼	4. 発行年 2023年
2. 出版社 光文社	5. 総ページ数 304
3. 書名 犯罪へ至る心理 : エティエンヌ・ド・グレーフの思想と人生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------